

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2019-06-01

APM news 212



秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館

APM創立10周年記念 第29回企画展 秋山孝ポスター展11

秋山孝の神秘-5「考える技術」「表現する技術」展

会期:5月11日(土)~9月15日(日)

〒940-1106 新潟県長岡市内宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、2019年7月に開館10周年を迎えます。「秋山孝の神秘」という命題で創作の秘密を紐解く試みは5年目となりました。1年目は「メタファー」、2年目は「点と線～形を失う形の活用の思考～」、3年目は「パラダイム～考える枠組みと表現する枠組み～」、4年目は「印刷すること/手描きすること」。そして、今年5年目は「考える技術/表現する技術」をテーマに考えます。

一般的にぼくたちは「考えること」と「表現すること」を一緒に考え創作します。ところが創作する段階になってその2つを同時に行っているため混同してしまい、自然に当たり前のことに位置づけて納得しています。しかし実際は、「考える技術」と「表現する技術」は、実践することにおいては根底的に全く異なるものであるのです。その事に気がつかず、そのままに創作は進行してしまい、大切な認識を失ってしまっているのです。

「考える技術」と「表現する技術」は根底的に異なる技術です。スポーツなどではこの言葉は紙一重の違いのように思えるときがあります。また、この違いによって計り知れない結果になると多く見受けられます。僅かな差違が大きな結果となり勝敗が決まります。

ぼくたちの表現するデザインの世界でも同じことが言えます。ほんの僅かな違いのアイデアでさえ、あるいは一本の線でさえ異なった描き方で天地の差が出るが多々あります。日常の努力と研究からその僅かな違いは生まれ、それが決定的な違いとなって表れ出ること、人々の心に響き渡る表現となるのです。

第45回美術館大学では、「考える技術」と「表現する技術」について検証する講義になるよう考察します。また、その意味について新たな表現の地平を見い出したいと考えます。

秋山 孝 (APM館長・多摩美術大学教授)